

里山ガーデンファーム通信

2018

Vol.

05



福島桃特集

甘く気高い幸せの味
福島4農家桃特集

福島の果物の代名詞「桃」。 それぞれの農家は美学を持って、桃作りに挑む。

1 から始めた福島での桃作り 大内果樹園 (大内徹也・美代子)

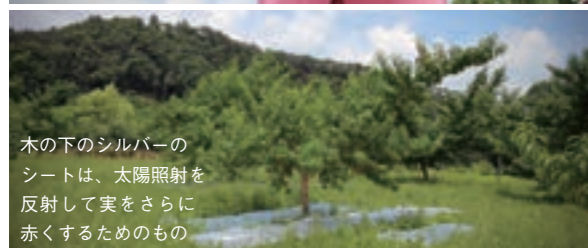
和歌山県出身のご主人と三重県出身の奥様が支える、大内果樹園。スーパーの青果物担当だったご主人が、自分でも果物を作ってみたいとご両親の出身地である福島県に移住を考えたのは震災前。その後震災が起きたが、移住を決めた。

他の農作物同様異常気象との戦いには苦労するが、美味しい桃の追求には余念がない。例えば桃は枝に長くついていたほうが糖度がのって甘くなる。ロスは多くなるが、ギリギリまで完熟を目指したいと話してくれる。現在は「川中島白桃(かわなかじまはくとう)」が収穫期。固めだけど豊かな甘みを楽しめる。

「桃といえば柔らかいものだと思うのですが、硬い桃は味わい深くて美味しいんですよ」と大内さん。



共同で農園を運営する
大内さんご夫婦



木の下にシルバーのシートは、太陽照射を反射して実をさらに赤くするためのもの



若い桃の実ほど産毛は固く、チクチクしている

中でも一押しは9月上旬に出荷を見込む「ゆうぞら」。果肉が繊維質を感じさせない、丸く上品な甘みだという。

夫婦二人三脚で果樹園を営む大内さんの桃は「食べたらずけがよくなる」なんて噂も?! その心地よい甘さをぜひ味わってみたい。

地域を代表する大規模農園 菱沼農園 (菱沼健司)

福島県下数カ所に農地を構える、大規模な菱沼農園。桃の種類は希少品種も含め30品種ほどを栽培している。

さっそく農地の1つにお邪魔して、菱沼さんお勤めの「夏雄美(なつゆうび)」のもぎたてを贅沢にも頂いた。すっきりとキレのいい甘さがまさしく夏に似合う味。成長が早いのに大玉になる育てやすい品種だという。

まあくて幸せなフォルム、うっすらと生えた産毛、ほんのりと発光するようなピンクはまさに桃色。桃は永遠の憧れのフルーツだ。季節性が高いイメージがある果物だが、種類によって出荷時期は異なり、福島では7月～9月が収穫期となる。県内で栽培されている桃の種類は20種類以上。「桃」と一口にいても異なる個性で楽しませてくれる。

続いて2箇所目の農地にお邪魔すると、作業の真っ最中。桃は1品種1週間ほどで収穫をしなければならないので、大規模農園になればなるほど大変な一斉作業となる。



大規模農園を運営する
菱沼さんは、福島の若きホープだ

「手付かなくなった農地の管理をお願いされることもあり、どんどん規模が大きくなりました。規模は大きいですが、天候を見ながらしっかりと管理をしています。」と菱沼さん。

土地を生まれ変わらせるという地域貢献の役割も大きく果たしている菱沼農園では、桃はもちろん、桃を使った加工品も楽しむことができる。

形も中身も美しい桃を 鈴木果樹園 (鈴木満・陽子)

福島県産桃の代表格である「あかつき」をメインに7種類ほどを栽培する鈴木農園。さっそく農園にお邪魔すると、なんだか桃の木が大きい…?

「普通は冬の剪定の時に枝を切るのですが、切らずに伸ばして細胞分裂を促しています。その枝先に実をつけることで、更に甘い桃ができるんです。」

更に鈴木さんのこだわりは他にも。収穫の20日前には桃の形をチェックする。お尻からみて正円でなく横長の桃は、種が2つ入っていたり割れていたり異常がある証拠。

種に異常があると十分に甘くならないので、この時点で落としてしまうとのこと。素人目に見るとほとんど分からないが、完璧に美味しい桃を確実に出荷するためには欠かせない工程だという。



左が正円、右が横長になってしまった桃

そんな鈴木農園の一押し品種は「嶺鳳(れいほう)」。希少品種で味はあかつきに似ているが、真っ赤な果肉とほどよい固さが特徴だ。ひとつひとつ丁寧に優しい目線で桃を育てる鈴木さんのように、誠実な甘さが味わえそうだ。



鈴木さんご夫婦。
桃を凍らせてレモン汁をかけて食べるのも美味しい、と陽子さん



渋谷ヒカリエ内ファーマー
イースト、ナチュラルハーモニーなど、東京でも取り扱われる紺野さんの桃



整然と美しい桃林



小さな気泡が表面に見える。美味しい証拠だ

常識を覆し桃本来を追求する フルーツファーム紺野 (紺野邦男)

「農家は人の胃袋に届く仕事。1本1本自分がよく手入れして、手の届く栽培をしないといけない。」

語る紺野さんの果樹園は、青々とした桃の木が整然と立ち並び、まるで絵画のように美しい。雑味のない純粋な本来の味を引き出す為に、味を邪魔する化学肥料はもう10年来使っていない。使用している肥料は石巻の魚を原料とした肥料のみで、使用量も紺野さんの代で3分の1以下に減らした。



紺野さんの桃農園の隅にある蕎麦の畑。

更に果樹園の隅を見ると、何故か蕎麦の畑が。

「蕎麦の花粉をヒラタアブという虫が食べて、アブラムシの近くで卵を産みます。生まれた幼虫はアブラムシを餌にします。桃の木にとってヒラタアブは無害。この方法なら薬なしでアブラムシが駆除できるんです。」

生き物のことを深く知っている紺野さんならではの手法だ。そのこだわりは桃の木の1本1本に及ぶ。



福島を旅して

Vol.05

福島ってどんなところ？ 東京のアラサー女がいく

7月はじめの福島は暑いけれど、アラサー女子である私の心はウキウキしている。1年ほど福島の美味しいものを取材しているが、今日は初めての「桃」特集なのである。押しも押されぬ人気者だけれど、買うには少し勇気がある高級フルーツ。そんな桃を味わいながら取材できるなんて…。と、ふとそこで浮かび上がる疑問。「桃ってカロリーが高いんだらうか。」あんなに甘くてジューシーなのだから、高いに違いないと調べると、意外にも1個あたり約85kcalとヘルシー。しかも脂肪燃焼効果が期待できるカテキン、繊維質であるペクチン、むくみ解消のカリウムなどが含まれるとのこと。見た目以上の桃の女子力に、更に期待が高まっていく。そして、いざ取材。自分の語彙力の無さを恨むが…どの種類の桃も美味しい!! 中でも美味しいと感動したのは、実が硬い品種の桃。私はとろんとした甘みがあり得意ではないのだが、この桃は歯ごたえがありすっきりとしつつも、桃本来の深い甘みが存分に味わえる。



通販で届けると「硬いんですけど…」という問い合わせもあるそうだが、硬い品種の桃があるのだ。しかも美味しい。美味しさ以上に感動したのは、各農家の方の美学ある桃への姿勢だ。同じ「桃」を作っているのに、アプローチは様々。当然個性が違う桃が出来上がり、それは

それぞれに美味しい。自然相手だから変数も多いはずだが、まっすぐ向き合って最善策を都度探す。同じものを作るのにプロセスがまったく違うなんて他の職業にはない。なんてクリエイティブなんだろう、と改めて農家の方を尊敬した。



平山美聡 (ひらやま・みさと)

1988年生まれ、東京都出身。メーカー勤務を経て、デザイナー・ライターとして活動。趣味は釣り・絵を描くこと。座右の銘は「右往左往」。

里山ガーデンファーム

里山ガーデンファームでは、50以上の生産者が集い、福島の豊かな地形が生む様々な野菜や果物、加工品を生産している。集荷センターなどを介さず、生産者から直接買って届くだけでなく、生産者に会いに行くと、実際に農業の体験もできる。創り手と消費者が限りなく近い、信頼関係を築ける場所。おいしさと一緒に、福島の今を知ってもらいたい。

2017年12月20日 発行

平成30年度ふるさと・きずな維持・再生支援事業補助金(福島)により発行しています。

NPO法人 がんばろう福島、農業者等の会
〒964-0976 福島県二本松市新生町490
TEL:0243-24-1001 FAX:0243-24-1536

里山ガーデンファーム 野菜セット定期便

とれたての旬の福島県産野菜・果物・加工品を10品ほど詰め合わせ、毎月お届けします。ネットショップは「里山ガーデンファーム」で検索ください。



放射能自主測定はもちろん、有機JAS認定、特別栽培など「世界一安全でおいしい野菜」を目指しています。※写真はイメージです。

毎月第4月曜日配達 2,980円(送料・税込)

スタディファーム

概要

農園を訪ね、福島の農業現場を知り、農業を実際に体験するツアーです。1日1組限定です。



参加料金

大人:1,000円/人(税込)
子供:500円/人(税込) ※中学生以下

ご予約はこちらまで

0243-24-1001(二本松農園 事務局)

アクセス

電車にてお越しの場合

JR東北本線・二本松駅から車で15分

お車にてお越しの場合

東北自動車道:二本松ICから15分

※ナビをお使いの方は、電話番号

(0243-23-2532 齊藤)で検索してください。

※駐車場有り



〒964-0976 福島県二本松市新生町490